

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年9月16日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873300917		
法人名	有限会社 ふれあい		
事業所名	グループホーム ふれあいの家	ユニット名	
所在地	〒311-0103 茨城県那珂市横堀2032-4		
自己評価作成日	平成23年1月26日	評価結果 市町村受理日	平成23年9月12日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成23年3月10日	評価確定日	平成23年8月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>多くのボランティア受け入れを取り入れ、外部の方々に来訪頂き利用者へ、楽しめる機会を創るよう努めている。 又、利用者家族にも来訪して頂けるよう取り組み、本人の様子など見て頂けるよう努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は詩吟や押し花、将棋、シルバーリハビリ体操、傾聴などのボランティアや小学生や中学生の職場体験などを受け入れ、利用者が地域とつながりながら暮らせるよう支援をしている。 利用者は学童クラブを訪問してゲームをしたり、クリスマスにはサンタクロースに扮して交流している。 管理者は職員会議やカンファレンス、職員面談を行うなど、職員の意見を聞く機会を設けており、休日の増加や残業の軽減、職員を常勤として採用するなど就業環境の改善に取り組んでいる。 入浴は週3回を基本としているが、利用者の希望にそって毎日の入浴も対応しているほか、体調に配慮して清拭等にするなど、個々に応じた対応をしている。 職員は広い共用空間を利用してレクリエーションを実施している。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ふれあい・たすけあい・ささえあいを大切にし、事業所内ばかりでなく地域の関係強化を図るように取り組んでいる。運営者は職員に理念を伝えて、日常的に確認する取り組みをおこなっている。	「ふれあい、たすけあい、ささえあいの三つの愛を大切に、利用者の尊厳を保持し地域社会での自立した生活ができるよう支援する」を旨とした理念を作成し、重要事項説明書に明記して利用者や家族等に説明している。 管理者は職員採用時に理念を説明するほか、全職員が毎月のカンファレンスや職員会議で理念を振り返り、共有して実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の詩吟の先生や傾聴・リハビリ・押し花の地域ボランティアの方々など受け入れている。学童クラブを訪問し将棋やゲームを楽しみ子どもたちと交流しているほか、クリスマスにはサンタクロースに扮して喜ばれている。小学生や中学生の職業体験を受け入れている。	職員は利用者が地域とつながりを持ちながら生活ができるよう、地域の神社への初詣などを支援している。 小学生や中学生の職場体験や詩吟、傾聴、将棋、押し花、シルバーリハビリ体操などのボランティアを受け入れ、利用者が地域の人々と交流ができるように支援をしている。 利用者は学童クラブの生徒とゲームや将棋をしたり、クリスマスには利用者がサンタクロースに扮し交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	傾聴・リハビリ体操ボランティアの方々などがきて頂いている。又、小学生の学童保育の訪問などに参加している。学生の職業体験などの受け入れもしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長・民生委員・老人会長・市役所職員・地域包括センター・利用者・施設職員で会議を年6回開催し取り組んでいる。	運営推進会議は利用者や市職員、地域包括センター職員、区長、民生委員、老人会会長、事業所職員で2ヶ月に1回開催し、サービスの現状や行事、自己評価、外部評価結果、介護サービス情報公評制度、研修等について報告し会議録を作成するとともに、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。 管理者は委員が出席し易いよう、運営推進会議で次の開催日を確認している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日々、事ある事に相談・連携を図っている。	市担当者や地域包括支援センター職員が運営推進会議に出席し、情報提供を受けている。 管理者は市担当者に利用状況を報告したり事業所の課題を相談しているほか、職員は地域包括支援センター主催の研修会に参加している。 管理者は介護認定審査会に出席し、市と協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを作成し取り組んでいる。又、夜以外は玄関（外との出入り口）・居室（利用者自身が施錠する以外）には絶対に施錠しないようにしている。	身体拘束排除に向けたマニュアルを作成するとともに、職員は会議等で話し合い身体拘束をしないケアを理解するとともに、玄関の施錠を含め、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修を受け取り組んでいる。又、一番多い、放置したり・聞こえないふりが無いようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、必要性がある利用者がいない為、取り組めていないが、今後このようなケースがある時は、活用していきたい。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に内容を読み、随時分かりにくい所は分かりやすいように説明し、納得を貰ってから、契約して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の話を聞くとともに、その家族にも意見をいただき当施設で出来る限り反映させている。	家族面会時や電話連絡時、運営推進会議で利用者や家族等の意見や要望を聴き、出た意見等を運営に反映させている。 重要事項説明書に第三者機関の苦情相談受付窓口を明記したり、意見箱の設置やアンケートを実施するまでには至っていない。	家族等の意見が反映できるよう、重要事項説明書に第三者機関の苦情相談受付窓口を明記するとともに、意見箱の設置やアンケートを実施することを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	反映出来ない事も多々あるが、おやつ代・催し物の費用など予算を決めたりして誰もがわかるように前向きに反映させ取り組んでいる。	管理者は毎月の職員会議やカンファレンス、評価票、職員面接、日々の記録などを通して、職員の意見や要望を聞いている。 職員の休日を増やしたり残業を軽減し、就業環境の整備に取り組むなど、管理者は職員から出た意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休日の増加・残業の軽減をし、職員の評価表を作成、職場環境・条件を明確にし向上している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に個々の職員に配慮し、ケースカンファレンス等を利用し当施設で必要なことなど段階的に個々に応じて進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内や市外の同業者と交流する機会を設けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約・入所する前に、本人及びその家族にお会いし、不安がないよう信頼関係づくりに努め（物事が言いやすい関係）ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約・入所する前に、本人及びその家族にお会いし細かくお話が聞けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人がその時必要なことを、支援している。たとえば、かかりつけの病院が他の市町村で家族が望む場合などは、NPOなどでやっている移送サービスを利用できるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	喜怒哀楽が無ければ、人間らしさ・その人らしさは出てこないと考えている。又、人生の先輩であることを念頭に、場面作りや声かけをしながら、協同できるようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には月1回以上は面会して貰えるようにしている。面会の際、長くいて頂けるよう場所づくりやお茶などを出して、お話をして場面作りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院もなるべく馴染み（かかりつけ医）があるところ・利用者の近所の方が訪問してきても、ゆっくりお話できるようにしている。	家族等や利用前からの友人が来訪している。職員は利用者の馴染みの店への買い物や電話のやり取り、神社への参拝など、利用者が大切にしてきた人や場所との関係が継続できるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	理念にもあるが、利用者同士でもふれあい・ささえあい・たすけあいを目指している。相性の良さそうな人同士が係わるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所しても、必要なことを家族が同意の上、支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人及びその家族に、暮らし方の希望・意向の把握に努めている。	職員は利用者との日々の係わりの中で、表情や言葉から一人ひとりの思いや意向を把握するとともに、カンファレンスや職員会議等で話し合い、共有している。 意向の把握が困難な利用者の場合でも思いや希望にそった生活ができるよう、職員は家族等の面会時に意見等を聴き利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用する際にできるだけ聞き取り、ケアに反映出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々バイタルのみでなく顔つき・顔色・声の大きさ、でかた・身体の動き・気分・目つき等細かく、常に把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族等から意見を聴くとともに、かかりつけ医の意見も参考にしながら、意向にそった介護計画を作成している。定期的にモニタリングを行い新たな課題や状態の変化があった場合には、その都度現状に即した介護計画に検討・見直している。	介護計画は利用者や家族等の要望を反映させるとともに、日々の記録を参考に、毎月開催しているカンファレンスや職員会議で話し合い作成し、家族等に説明して確認を得ている。 毎月モニタリングを行い設定期間毎に見直すほか、心身の状態に変化が生じた場合は現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録しカンファレンス等にて見直している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急遽家族ができなくなってしまう病院への通院や送迎、緊急時の対応など、本人及びその家族の要望に応じた臨機応変な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、将棋のボランティア・小学校学童・リハビリボランティア・詩吟ボランティア・傾聴ボランティア等を利用して頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族等の希望するかかりつけ医の一覧表を作成するとともに、受診を支援している。かかりつけ医から利用者の既往歴や薬剤師に薬の副作用に関する情報を得て、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医への受診は家族等が付き添ったり、家族等の希望を受けて職員が付き添うなど、適切な医療が受けられるよう支援をしている。 受診結果は利用者や家族等に説明するとともに記録に残し、全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	薬剤師・協力医療機関に相談出来るようになっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>本人が戻れるよう支援している。医療機関だけでなく家族とも相談しあっている。</p>	/	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合や終末期の対応が必要なときは、本人及びその家族の思いを受け止め支援できるよう心がけ、かかりつけ医とも話し合っている。</p>	<p>重度化や終末期に向けた事業所の対応指針を、契約時に利用者や家族等に口頭で説明し、医療機関と連携して事業所のできる最大のケアに取り組んでいるが、対応指針を明文化したり同意書を作成するまでには至っておらず、職員は方針を共有したり研修を受講するまでには至っていない。</p>	<p>重度化や終末期に向けた事業所の対応指針を明文化するとともに、利用者や家族等に説明し同意を得ることを期待する。</p> <p>早い段階から重度化に向けた方針を話し合い、状態の変化に応じて段階毎に意思確認をすることを期待する。</p> <p>管理者は重度化や終末期の対応マニュアルにそった研修を実施するとともに、対応指針を職員で共有することを期待する。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急発生時対応マニュアルを作成し対応している。</p>	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年2回避難訓練を実施するとともに避難経路や消火器の設置場所を確認している。夜間を想定した避難訓練を実施したり訓練で得られた課題を記録している。災害時に備えて飲料水を備蓄している。災害時に協力が得られるよう運営推進会議で地域住民に働きかけている。	年2回消防署の協力を得た火災避難訓練や通報訓練、夜間を想定した避難訓練を実施し、避難経路や消火器の確認をしているが、訓練に近隣住民の参加を得るまでには至っていない。災害時に備え米と飲料水を備蓄しているが、備蓄品は少なくリストを作成するまでには至っていない。	近隣住民やボランティア参加の避難訓練が実施できるよう運営推進会議等で働きかけることを期待する。災害対応備蓄品を用意し、リストを作成して定期的に点検することを期待する。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活（居室・トイレ等）はもとより、誇りやプライバシーを損ねない対応をとるよう周知徹底している。職員は利用者の人格の尊厳を第一に考え、プライバシーを損なわない言葉かけや対応に努めている。個人情報に関する書類は決められた場所に保管している。	職員は挨拶や言葉かけを通して入浴介助や食事介助、トイレ介助時に利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。個人情報の利用について契約時に利用者や家族等に説明し同意を得ているほか、個人情報に関する書類の適切な取り扱いや管理に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話等で思いや希望を把握できるように、又自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の利用者本人の生活歴・日々の会話等、その家族との連携を取り、その人らしい生活が送れるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝・食後・外出等、目・気配りをしている。又、理容師がきてくれるので、そのとき利用者に希望を聞いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	冗談を職員が言って笑わせたりして和やかにしている。食事の準備・食事・後かたづけ等利用者と共に行うようにしている。	職員は利用者の重度化に伴い、食事介助を優先にしている。 利用者の状態に合わせた食事を提供し、献立を説明しながら利用者のペースに合わせて和やかに食事ができるよう支援をしている。 利用者はできる範囲で食後の食器拭きや箸の片付けなどを行っている。 季節が感じられるよう行事食を取り入れたり、誕生会の特別メニューを提供している。 近隣住民から竹の子や栗などの差し入れがあり、利用者の喜びとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師・栄養師に摂取量を相談しながら、利用者一人一人の必要量を1日を通じて食べたり飲んでもらったりする支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じた口腔ケアを行い、入れ歯は寝る前に外し、一晚薬剤につけこんでおくようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄リズムを全職員が把握するとともに、おむつの使用を減らし一人ひとりの残存能力を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	職員は利用者の様子からサインを察知してトイレ誘導をしたり、利用者一人ひとりの排泄を記録し時間を見計って声かけするなど、トイレで排泄ができるよう支援をしているほか、利用者の身体機能に応じて手を差し延べ、排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人一人個別に対応し、細かく行うように職員に指導している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴となっているが、利用者の希望によって毎日でも入浴できる体制は取れている。又、拒否のある利用者も入れることができるようにしている。	入浴は週3回を基本としているが、利用者の希望にそって毎日の入浴にも対応し、寛いだ気分で入浴ができるよう支援をしている。利用者の都合や体調に合わせて清拭等に対応するなど、個々に応じた入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者本人が夜間不穏になり徘徊するなどが無いよう、日中に生活リズムをつかみ夜間に心地よく睡眠が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の用法・効能・注意事項が書いてある説明書をいつでも見られるよう、又、新たに追加される等、特別な薬はその都度職員に説明し確認して行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	算数・タバコ・縫い物・洗濯干し、たたみ・台所手伝い・将棋等一人一人違うが支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食・買い物・小学校学童・散歩・ドライブ・神社等外出支援を行っている。	利用者は職員と一緒に小学校に行き学童クラブの児童と交流したり、事業所周辺の散歩や買い物、ドライブ、神社参拝などに出かけているほか、家族等の協力を得て外出したり外食に出かけている。 前庭で利用者が外気浴を楽しんだりお茶を飲むよう支援し、気分転換やストレス解消、五感の刺激を得る機会となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて、自己管理して頂いたりしながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話するように支援している。又、電話が掛かってくれば、本人だけがゆっくり話ができるような場所へ誘導している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく、家庭的な雰囲気づくりをしている。室内温度は23℃を保つようにすると共に、湿度も一定に保てるようにしている。	広くて明るい共用空間に観葉植物やテレビ、机、ソファ、加湿器等が置かれ、利用者がレクリエーションを楽しんだり、自由に寛げるように工夫をしている。 窓からは国道を走る自動車や前庭、畑の作物などが眺められ、利用者は季節や生活感を感じながら穏やかに過ごしている。 台所から漂う匂いや調理の音は、利用者の食欲を高めたり五感の刺激に役立っている。 トイレや浴室は清潔に保たれている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は思い思いに過ごしている。日中は、ほとんどの利用者がホールで過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく使い慣れた馴染みの物品を居室に持ち込んでおり、居心地のよい環境づくりをしている。過ごしやすい温度に設定している。湿度も同様である。	契約時に利用者や家族等に使い慣れた物品を持ち込んでもらうよう説明をしている。利用者は居室にベッドやタンス、寝具、座布団、机、いす、テレビ、衣装ケース、家族の写真、日用品など使い慣れた馴染みの物品を持ち込み、安心して暮らせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	空間も広く、手すりも設置してある。人と人がぶつかることもない。トイレも4箇所あり全てが重なることは今日までない。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input checked="" type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム ふれあいの家

作成日 平成23年9月12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	3月11日におきた震災にて生活用水が不足する事態となった。又、電気・ガソリンがなく不便であった。	不足して不便にならないようにしていく。	井戸を用意する。発電機を用意して、保管できる量のガソリン備蓄をする。	既に終わっている。
2	33	重度化や終末期に関するマニュアルは作成されているが、現在まで使用する利用者がおらず研修を行っていない。	研修に参加する。	重度化や終末期に関する外部研修がある時に積極的に参加する。	6ヶ月
3	6	意見箱の設置やアンケートの実施がされていない。	意見箱の設置をする。	玄関の棚に意見箱の設置をする。又、アンケートを実施する。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。